

2018年3月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度をみると、極うずの中心はシベリア側に偏り、英国付近～東シベリアでは負偏差となった一方、カナダ北東部～グリーンランド付近では正偏差となった。中東付近～太平洋中部の中緯度では帯状に広く正偏差となった。200 hPa 風速をみると、ユーラシア大陸中部～太平洋では偏西風が分流し、ユーラシア大陸中・東部の亜熱帯ジェット気流は平年と比べて南寄り flowed。海面気圧は、極付近、日本付近～太平洋の中緯度帯で正偏差、大西洋の中緯度帯～ユーラシア大陸の広い範囲で負偏差となった。850 hPa 気温は、ユーラシア大陸では、中緯度で高温偏差、高緯度で低温偏差が帯状に見られた。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、インドネシア東部～西部太平洋赤道域、北太平洋中・東部の北緯20～30度帯、アフリカ東部～南インド洋西部で活発、中・東部太平洋赤道域、大西洋赤道域で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の前半にインド洋を東進したが、その後は東進が不明瞭になった。対流圏上層では、ヨーロッパ～南アジア～ハワイの西にかけて波列パターンが明瞭となり、中東付近、日本の東で高気圧性循環偏差、中国南東部、ハワイの西で低気圧性循環偏差が見られた。対流圏下層では、太平洋西部で低気圧性循環偏差、太平洋中・東部で高

気圧性循環偏差が、それぞれ南北半球対で見られた。海面気圧は、大西洋～アフリカで正偏差、太平洋西部～北太平洋中部で負偏差となった。南方振動指数は+1.2 だった。

世界の天候

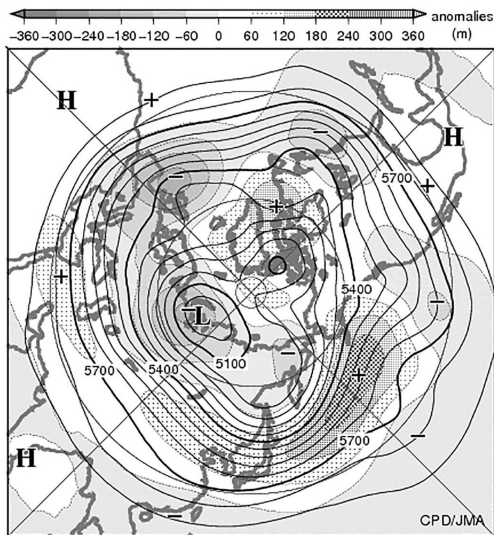
2018年3月の世界の月平均気温偏差は+0.34°C (速報値) で、1891年の統計開始以降、3番目に高い値となった。3月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.87°C/100年 (速報値) である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

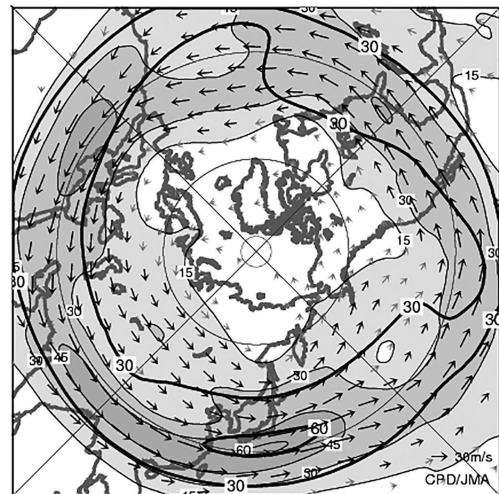
- 東アジア東部～中央アジア南東部と中東北部～北アフリカ南東部で広く異常高温となった。
- ロシア西部及びその周辺とヨーロッパ北部～南西部で異常低温となった。
- ヨーロッパ南部及びその周辺で異常多雨となった。
(気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課)

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

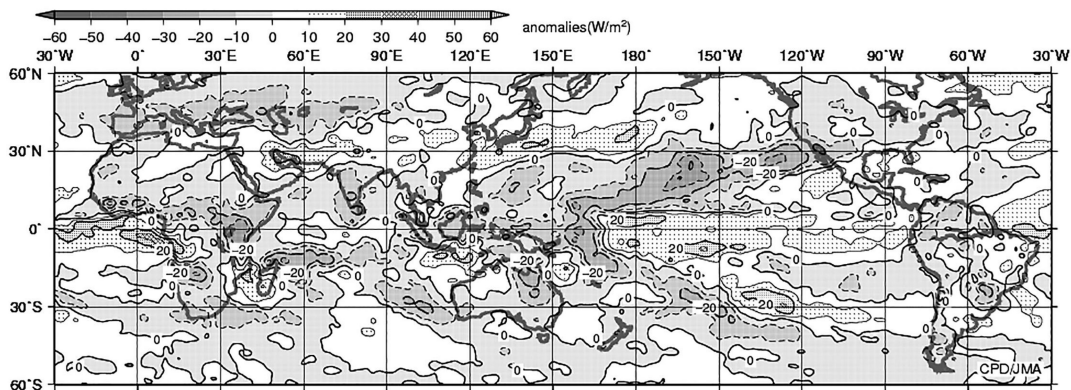
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



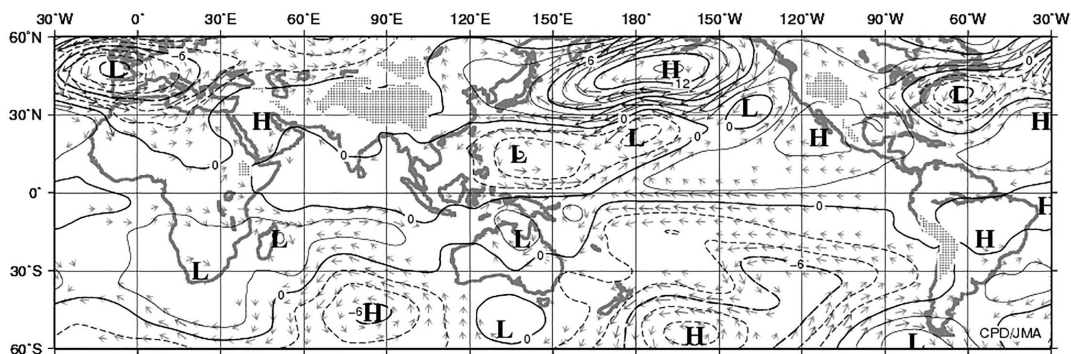
2018年3月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。



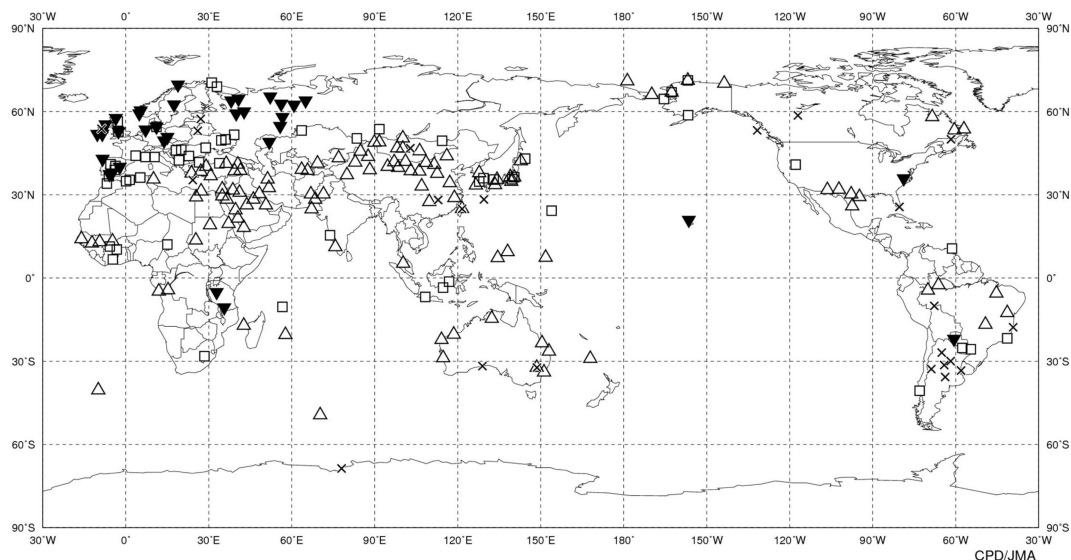
2018年3月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル
等値線間隔は15 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は30 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2018年3月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋
 大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2018年3月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981～2010年の平均値。



2018年3月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合，異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。